

# 米本一郎 年譜

この年譜は米本一郎の自作年譜をもとに前田明範が編集した。アンダラインは出品作品である。

## 大正3年(1914)

1月17日東伯郡中北条村大字江北542番地にて父辰蔵 母たまの長男として出生。

## 大正9年(1920)

中北条尋常高等小学校に入学。

## 大正14年(1925)

同校尋常科を修了するが、病気のため中学の受験ができず同校高等科へ進級。在学中に前田寛治が同校へ寄贈していた「谷中の林」「竜巻」を見て大いに感銘を受ける。病弱で欠席しがちであったが、自作の絵で友達を喜ばせる。

## 昭和2年(1927)

4月倉吉中学に入学、中井金一に学ぶ。在学中に美術学校への進学を決意するが家族の猛反対を受ける。しかし 同校の校長、岡本久八の理解と助言を得て家族を説得し可能となる。

## 昭和6年(1931)

4月15日同校の美術部「白桐会」に入り 中井の指導のもと受験のための石膏デッサンを始める。

## 昭和7年(1932)

2月8日上京し同舟舎洋画研究所で小林萬吾に学ぶ。これは岡本校長の計らいで卒業試験を免除されたことによる。

3月東京美術学校油画科を受験するが落第。

○ この頃、大崎 高田馬場、本郷肴町 天現寺に住む。

## 昭和8年(1933)

4月帝国美術学校西洋画科に入学。これは初志を貫くために両親を納得させながら、受験勉強を続けるためであった。

○ 小学校の恩師 綾女正雄の短歌同人誌「はまなす」の創刊に際し表紙絵を依頼されて描く。

○ この頃、西荻窪、淀橋 東中野に住む。

## 昭和9年(1934) 20歳

4月東京美術学校油画科に入学、予科 田辺至、本科 南薫造に学ぶ。同級に荻太郎、藤江理二郎、西尾善積、渡辺武夫らがいた。この頃練馬のアトリエ村(板橋区中新井町)に住み、大作を制作しながら友人たちと画論を戦わせる。一時、渡辺武夫と同居する。

8月砂丘社同人に東京美術学校在学中の伊藤彰、杉山 正らと共に推薦され参加。砂丘社は2月に再生をはかり生駒信敬、井上勉夫、奥地勇、野儀実二、長谷川 富二郎、福田理庸 山根寅二郎が同人に加入していた。(第二次砂丘社)



第1回律動会 青樹社

## 昭和11年(1936)

○ この頃、練馬のアトリエ村で光風会の先輩であった朝井閑右衛門の指導を受け 群像のモデルなどをしながら一時共同生活をする。

## 昭和13年(1938)

2月16日～3月6日第25回光風会展(東京府美術館)「海邊裸群像」(賞候補)「淡路島海岸」

○ 油画科の同級生と律動会を結成、第1回展(銀座 青樹社)を開催、出品作品が猪熊弦一郎に評価される。この回で自然解散する。

## 昭和14年(1939)

3月同校を卒業、卒業制作「婦人座像」「自画像」(東京芸術大学蔵)

2月19日～3月5日第26回光風会展「丘」(消去)

4月28日徴兵検査で第二補充兵役となる。

4月春陽堂(出版社)の嘱託となり 6月には日刊工業新聞社東京本社の嘱託となる。

## 昭和15年(1940)

1月12日東京市立忍岡女子商業学校の図画科嘱託となる。

2月17日東京市立蒲田工業学校の図画科専任嘱託を兼任。

14日～3月1日第27回光風会展「老人と子等」

6月14日中川 恵美子と結婚。

10月1日～22日紀元2600年奉祝美術展(東京府美術館)「馬と兵隊」(消去)

11月23日～12月7日第5回大潮会展、2点出品作品名不詳。

○ 米本一郎作品頒布会を行ない芝田徹心（美校校長） 南薫造（美校教授） 岸田日出刀（建築家で親族）の後援文を受ける。

○ 一時期池袋のアトリエ村に転居していたが 再び練馬のアトリエ村（板橋区中新井町3-1936、後に豊玉北4-28-2と地番変更）にもどる。

#### 昭和16年（1941）

2月14日～3月1日第28回光風会展「嵐と子供」（北条小学校蔵）I氏賞「子供と玩具」（消去）

11月23日～12月7日第6回大潮会展「メガホンの小父さん」特選。

#### 昭和17年（1942）

2月14日～3月1日第29回光風会展「今朝の新聞」K夫人賞（消去）  
「一人の子供」

7月6日長男尚希が生まれる。

#### 昭和18年（1943）

2月14日～27日第30回光風会展「T氏像」「お爺さんと孫」会友に推挙される。

○ 工業グラフ（月刊 日刊工業新聞社）の表紙絵と小説の挿絵を担当する。

9月10日中部第47部隊に入隊、鳥取連隊に応召。この日鳥取地震がおりしばらく復旧作業にあたる。

10月16日満州に出兵。満州第679部隊二江省鶴立県興山歩兵第63連隊に転属、赤見隊に配属される。隊長の許可を得て焼却を前提に写生をおこなう。

11月12日満州第931部隊歩兵第121連隊に転属。

#### 昭和19年（1944） 30歳

2月17日病気のため内地送還され大阪陸軍病院に入院。

4月鳥取連隊に復帰する。

7月10日補充兵役免除となり除隊、第二国民兵役に編入。

8月18日松江陸軍病院に編入、傷痍軍人鳥根療養所に入所 10月1日に退所する。以後江北の自宅で制作を続ける。

#### 昭和20年（1945）

4月恵美子と協議離婚（戸籍上は翌年の6月29日）。

9月28日尚希が流行性疫病のため夭折。

○ 日本美術及工芸協会会員となる。

○ 松岸寺（江北）の青少年を対象とした文化サークルで 斎尾弘忍和尚と俳句 短歌、演劇などを指導し 自らは戸倉幸子（若山牧水門下）の主宰する短歌雑誌に投稿。（号 清望子）



第4回日展「浴後」

#### 昭和21年（1946）

3月1日～31日第1回日本美術展覧会（日展、文部省 東京都美術館）  
「モンブチ」（鳥取県立博物館蔵）

6月19日 25日第32回光風会展（日本橋三越）「裸婦」会員に推挙される。

12月浜田智世子と結婚、一時東郷町門田に住む。

#### 昭和22年（1947）

2月11日～23日第33回光風会展「静寂」。

5月10日東伯郡学校組合立河北中学校教諭となる。

31日制定の河北中学校校章をデザインする。

6月10日～25日第1回美術団体連合展（毎日新聞社 東京都美術館）  
「からたちの垣根」招待出品。

20日第3回日展委員を委嘱される。

9月17日長女 直子が生まれる。30日羽合町長瀬956番地の浜田家に入籍。

14日～18日米子市制20周年記念美術展覧会(明道小学校)「秋景」  
砂丘社同人として賛助出品。

10月25日砂丘社は砂丘復刊第1号として「前田寛治特輯」を発刊。米本のほかに中井金三、波田野幸治、増田英一、長谷川富二郎(編集)、小田幸子、杉山一正、山根行雄、塩谷宗之助、福留章太、徳吉英雄らの同人が執筆。

○ 油絵個展(倉吉信用組合)

#### 昭和23年(1948)

4月1日県立倉吉第一高等学校(翌年倉吉高等学校と改称)の教諭として転任。

5月25日～6月16日第2回美術団体連合展に招待出品、作品名不詳。

10月21日～11月20日第4回日展「浴後」

15日～集団検診で結核が判明し休職。

#### 昭和24年(1949)

3月16日～30日第35回光風会展「子供」

5月14日～6月5日第3回美術団体連合展に招待出品、作品名不詳。

6月20日次女 麻里子が生まれる。

10月 日～ 日山陰美術展(米子就將小学校～倉吉明倫小学校)「鉢造りの桃」「カンコ舟のある海邊」

10月29日～11月21日第5回日展「浴室の裸母子」

11月6日～10日第1回鳥取県文化祭美術工芸展(鳥取県立図書館)

「舟のある海邊」



昭和27年 大山への写生行



昭和28年個展 前列中央、中井金三 右、米本

○ 第2回油絵個展(東伯文庫)

○ 曹洞宗宗務庁社会部の依頼により昭和25年カレンダの表紙絵を描く。

#### 昭和25年(1950)

○ 結核の病状が悪化したため療養を続ける。

6月10日砂丘社は倉吉美術協会創立に参加。

#### 昭和26年(1951)

1月11日休職期間満了のため同校を自然退職、療養に専念する。

5月25日～28日第2回倉吉美術展(倉吉東中学校)「風景」「庭の隅」

11月20日～26日鳥取県美術展覧会倉吉地区展(成徳小学校)無監査「浴室の裸母子」

#### 昭和27年(1952)

○ 病氣療養。

10月中旬はじめて大山へ写生に行く。

#### 昭和28年(1953)

1月8日～10日油絵個展(倉吉経済クラブ 同クラブ後援)辻永(芸術院会員 光風会会員) 笹鹿彪(光風会会員) 岸田日出刀の後援文を受ける。同クラブのバッジを制作。

4月1日～16日第39回光風会展「舟のある湖畔」

5月15日～17日大山へ写生に行く。

22日～25日第4回倉吉美術展（倉吉東中学校）審査員「街かど」  
『新緑の大山』『静物』

10月8日～12日第4回鳥取県展（県立図書館）『裸婦』

○ 病状はやや好転する。

**昭和29年（1954） 40歳**

3月31日～4月15日第40回光風会展「大きな柳のある風景」

4月10日～15日中井金二個展（丸徳百貨店）開催に向けて中井を説得して実現。

6月10日～13日再興第1回砂丘社展（労働会館）に出品。倉吉美術協会を退会した波田野幸治、前田利二、福留章太、山柵行雄、桑野博利、斎江栄、津野卓郎、石谷嘉治、石井成海、塩谷宗之助らと共に再結成。

（第4次砂丘社）

6月26日長男 道郎が生まれる。

10月3日～7日デッサン展（倉吉民芸画廊）絵付けの陶器も出品。

7日～11日第5回鳥取県展（倉吉東中学校、鳥取 米子を巡回）  
『花』

○ 山陰週報新聞に二朝 東郷温泉の風景スケッチを連載。

○ 倉吉看護高等専修学校の依頼により『ナイチンゲール肖像』を描く。

**昭和30年（1955）**

3月31日～4月15日第41回光風会展『卓上静物』（北条町中央公民館蔵）『馬の山』

6月9日～11日砂丘社展（労働会館）この時希望者に似顔絵を描いてサピスする。

夏 米本一郎後援作品頒布会を行ない岸田日出刀、辻永、笹鹿彪の後援文を受ける。

10月4日～14日デッサン個展（鳥取りいち画廊）20点。

6日～10日第6回鳥取県展（米子 明道小学校）『神田街』

○ 「鳥取県立公園二朝東郷温泉スケッチ絵はがき」米本の他、福留章太、前田利二が2点ずつ描く。

○ 山陰週報に大山とその周辺のスケッチを連載。

**昭和31年（1956）**

2月15日～3月31日組合立河北中学校の講師を勤める。

3月11日～25日デッサン個展（倉吉茶房みふね）約20点

4月3日～18日第42回光風会展『柘榴のある静物』

8月3日～5日鳥取美術協会 鳥取東部美育連盟主催の実技研究会（鳥取大学学芸部美術室）の講師をつとめる。

26日～12月31日羽合町立羽合中学校講師を勤める。

10月10日～14日第7回鳥取県展（鳥取県立図書館 倉吉 米子を巡回）

審査員『湖畔風景』

10月18日発行の綾女正雄主宰の歌誌『はまなす』復刊号よりしばらく同誌の表紙絵を担当。

○ 病状が悪化。

**昭和32年（1957）**

2月12日国立管生療養所に入院。江北松岸寺に後援会事務所を置き 住職斎尾弘忍が会長を務める。20日「芸術家は作品によってのみ他人と交わって存在し そのことによって 他人をも創造に参加させる。もっとも美しいところでは交わるのが生命の豊かさのしるしだろうし そこにおいてでなければ交わってはならぬとする決意が誠実ということであろう。」と日記に記す。

6月4日 21日に胸部成形手術をおこない11月に全治退院。回復期には油絵を描き院内で個展を開く。

**昭和33年（1958）**

○ 砂丘社を山柵行雄、斎江栄、石谷嘉治、石井成海らと脱退。

**昭和34年（1959）**

1月26日～羽合町立羽合中学校講師となる。

4月2日～19日第45回光風会展『株太』『冬枯れ』

10月9日～12日第10回鳥取県展（鳥取市立体育館）『たそがれの街』

**昭和35年（1960）**

4月2日～19日第46回光風会展『たそがれの街』『湖畔』

6月7日～12日第1回全鳥取美術展（鳥取大丸）『裸婦』 審査員。



第46回光風会展『たそがれの街』

12月25日～石井成海、小原幹男と倉吉総合美術研究所を大和百貨店3階に開設、毎週土曜日午後2時より洋画、デッサン デザインを教える。

#### 昭和36年(1961)

4月1日中学校教諭に復職する。

5月25日～28日第8回倉吉市展(市役所市民ホール)「花」審査員。

6月6日～11日第2回全鳥取美術展(鳥取大丸)「静物」審査員。

12月1日～10日洋画個展(倉吉民芸画廊)

○ 羽合中学校(現西小学校)玄関前の砂防壁にモザイク画制作に取り組む。完成は昭和38年10月「光りと大気と水」(18×42m)

#### 昭和37年(1962)

4月3日～19日第48回光風会展「桌上静物」会員賞候補。

月 日～ 日第9回倉吉市美術展 作品名不詳

6月 日～ 日第3回全鳥取美術展(鳥取大丸) 作品名不詳

11月20日～30日小品個展(倉吉民芸画廊) 約50点

#### 昭和38年(1963)

2月12日～17日油絵個展(鳥取大丸) 24点。

4月1日～県立由良育英高等学校に教諭として勤務。

2日～19日第49回光風会展「田園風景1」(鳥取県立博物館蔵) 会員賞候補 「田園風景2」。

月 日～ 日第10回倉吉市美術展(倉吉福祉会館) 作品名不詳

6月 日～ 日第4回全鳥取美術展(鳥取大丸)「春告鳥」(湖畔荘蔵)

秋 ロゴス文化教室の浜田宣伴らと教師をつとめる。

#### 昭和39年(1964) 50歳

4月1日～10日第50回光風会展「坂上の乾燥庫」

6月米本一郎渡仏後援会を結成、岸田日出刀などの推薦文を受ける。

4月11日～20日米本一郎油絵個展(倉吉民芸画廊) 30点

10月9日～12日第11回倉吉市美術展「大浦天主堂」

#### 昭和40年(1965)

1月23日米本一郎油絵個展(高木啓太郎の紹介による明石市 辻勝一の後援) 60点

○ 日本美術家連盟の会員となり 国際造形芸術連盟会員に推挙される。

4月4日～9月15日光風会より派遣され、ヨーロッパへ研究旅行(エジプト ギリシャ イタリア スペイン モナコ スイス オーストリア ドイツ オランダ ベルギー イギリス フランス)。

油彩60点、素描600点を制作。この間 朝日新聞と日本海新聞に通信文と絵を掲載。(掲載日時は文献リストに記載)

12月4日～10日米本一郎滞欧スケッチ個展(倉吉民芸画廊)



昭和39年4月 民芸画廊個展 浜田宣伴と

#### 昭和41年(1966)

2月26日～27日滞欧作品展(江北弘法院) デッサン30点、油彩5点、28日には映画と座談会。

3月15日由良育英高等学校を依頼退職、16日鳥取大学学芸学部(4月1日より教育学部) 助教授となり美術科を担当。

4月2日～19日第52回光風会展「トレドの街角」

10月27日～30日第13回倉吉市展「イタリ の漁港」「トレドの郊外」「クリヤンクル(パリ)」

月 日～ 日第7回全鳥取美術展「ピエロとアルルカン」

#### 昭和42年(1967)

6月21日～30日滞欧作品展(倉吉民芸画廊) 26点。

10日～15日第11回鳥取県展(米子高島屋)「モンマルトルの裏街」招待出品。

11月末 鳥取大学教育学部第113回学芸談話会で「西欧美術視察による一考察」を講演。

12月9日～11日滞欧作品展(鳥取大丸) 36点、淡彩スケッチ23点。

23日～26日第14回倉吉市展「ロ テンブルグ」

○ 日本美術家連盟の「画家の選んだ全国スケッチの旅」刊行に際し鳥取県を担当。

#### 昭和43年(1968)

4月～9月鳥取市農協生活センタ にモザイク壁画「田園」(130×50m)を制作。

4月2日～19日第54回光風会「古い家並み(パリ)」

10月15日～20日第12回鳥取県展(鳥取大丸)「道化師の口上」招待出品

11月29日～12月2日第15回倉吉市展「サリム氏」

#### 昭和44年（1969）

3月～7月鳥取市本通会館ビルにモザイク壁画「鳥による」（4.5×13.5m）を制作。

6月6日～9日第16回倉吉市展「スペインの古城」

8月2日～9月25日秋田農業大博覧会 世界の農業館に日本美術家連盟の推薦により 鳥取県代表として「大山と梨花」を出品、買い上げとなる。

10月9日～14日第13回鳥取県展（倉吉福祉会館）「バジャマの娘」招待出品。

11月 日～14日山陰光風会展（鳥取シャルム画廊）

12月11日～20日油絵小品展（倉吉民芸画廊）27点。

#### 昭和45年（1970）

1月 日～15日洋画家三人色紙展（倉吉タイヨ ）前田利二、山樹行雄と昨年亡くなった恩師 中井金一の追悼文集を出版するための基金を捻出するため。

4月2日～19日第56回光風会展「少女（立てる女）」

5月31日～6月3日第17回倉吉市展「サカスの馬と女」

10月9日～14日第14回鳥取県展（米子高島屋）「道化師」

○ 河北中学校の校旗をデザインする。

○ 鳥取県美術展改革小委員会の委員となり規約無鑑査要領を立案に携わる。

#### 昭和46年（1971）

3月1日鳥取大学教育学部教授となる。

6月2日～5日第18回倉吉市展「山麓の春（春陽山麓）」

10月12日～17日第15回鳥取県展（鳥取大丸）「山麓の秋」審査員 招待出品。

11月21日～30日油絵展（倉吉民芸画廊）

12月25日発行 鳥取大学教育学部研究報告第13巻第2号に「壁画考察とその制作（MOSAIC）」を発表。

#### 昭和47年（1972）

5月21日～12日第19回倉吉市展「早春の沼地」

11月5日～12日第16回鳥取県展（鳥取県立博物館）「雨後の協会（スペイン）」審査員。

#### 昭和48年（1973）

4月3日～19日第59回光風会「マキシの女」

6月 日～18日鳥取大学開学記念美術展（鳥取県立博物館）「山陰海岸」

8月26日ゴヤのエッチング展について日本海テレビ「ゴヤからピカソまで」に出演、放映される。

10月1日～4日第20回倉吉市展「回想のESPANE」

11月17日～22日第17回鳥取県展（鳥取県立博物館）「マキシの女」招待出品。

#### 昭和49年（1974）

4月3日～19日第60回光風会展「赤い帽子の女」

7月6日～9日第21回倉吉市展（倉吉博物館）「海辺風景」

9月14日～23日郷土作家裸婦展（画廊鳥取美術）「裸婦」を出品。

10月1日～6日鳥取県展（鳥取県立博物館、倉吉博物館 老人福祉センター を巡回）「坂道の家（トレド）」審査員。

11月2日 4日中央展出品画家絵画展（東伯町中央公民館）「赤い帽子の女」を出品。

#### 昭和50年（1975）

6月12日～17日郷土作家が描いた色紙展（画廊鳥取美術）に出品。

26日～29日第22回倉吉市展「大山（遠望）」

26日～7月1日第1回光風会鳥取県グループ展（画廊鳥取美術）に6点出品。メンバーは安東尚文、石田整昭、金畑実ら。

8月19日～31日郷土洋画家合同展（画廊倉吉美術）3点。

10月1日～6日第19回鳥取県展（鳥取県立博物館）「游鯉」（倉吉信用金庫蔵）審査員。

4日～12日滞欧スケッチ展（画廊倉吉美術）60点。

#### 昭和51年（1976）

4月9日～25日第62回光風会展「扇を持つ女」

5月25日～27日第62回倉吉市展「モノマルトルの丘より」

7月3日～10日第2回光風会鳥取県グループ展（画廊倉吉美術）「大山」「ロテンブルグ裏街」「ざくろ」「ロテンブルグ街角」「サクレクル」

9月23日～28日第20回鳥取県展「トレドの城門」無鑑査。

#### 昭和52年（1977）

7月7日～10日第24回倉吉市展「モスクの見える風景（カイロ）」

7日～11日第3回光風会鳥取県グループ展（米子市公会堂）4点。

9月18日～27日第21回鳥取県展「鳥ヶ山」審査員。

10月4日山陰中央新報に笹鹿彪の追悼文を寄せる。

#### 昭和53年（1978）

4月7日～22日第64回光風会展「ネパール服の女」

6月23日～30日山陰代表洋画家15人展（米子山陰日動画廊）に「壺とからす瓜」出品。

7月6日～9日第25回倉吉市展「残雪の烏ヶ山」  
8月20日倉吉市福庭字沢64-3に転居。  
9月2日～24日70周年記念鴨水会美術展（倉吉博物館）「桌上静物」  
「モンブチ」を出品。

#### 昭和54年（1979）

4月1日鳥取大学を停年退官する。  
5月31日～6月3日第26回倉吉市展「大山初冬」  
8月1日～7日第4回光風会鳥取県グループ展（画廊鳥取美術）5点。  
9月15日～24日第23回鳥取県展（鳥取県立博物館、倉吉博物館 米子図書館を巡回）「大山晩秋」審査員。

#### 昭和55年（1980）

3月17日上神山窯で絵付けをする。大皿3 中皿5 茶碗5。  
4月8日～22日第66回光風会展「雪の山峡」  
27日第4回日本海シンポジウム（鳥取大学）に出席 「天神川流域  
下水道終末処理場問題」を長瀬地区環境を守る会の会長として報告する。

5月29日～6月1日第27回倉吉市展「錦秋大山」  
6月19日～24日油絵個展（鳥取大丸）30点。  
8月2日～10日第5回光風会鳥取県グループ展（画廊倉吉美術）5点。  
9月14日～23日第24回鳥取県展「一隅静物」無鑑査。

#### 昭和56年（1981）

4月8日～24日第67回光風会展「大山の秋」  
5月28日～31日第28回倉吉市展「赤松の林」  
7月10日～14日第6回光風会鳥取県グループ展（米子図書館）3点。  
10月10日～17日第25回鳥取県展「早春大山」審査員。  
11月1日～10日油絵個展（倉吉民芸画廊）26点。

#### 昭和57年（1982）

4月9日～24日第68回光風会展「春雪大山」  
6月17日～20日第29回倉吉市展「椿の平」  
9月12日～21日第26回鳥取県展「青衣の妻」無鑑査。  
12月 日～ 日油絵個展（倉吉民芸画廊）

#### 昭和58年（1983）

4月9日～16日第69回光風会展「残雪大山」  
7月8日～17日第30回倉吉市展「群鯉」  
9月4日～12日第27回鳥取県展「霧の烏ヶ山」審査員。  
11月11日～14日に開催の国体リハ サル大会58年度日本産業人9人制バ  
レ ボール男女全国優勝大会のポスト 原画を羽合 北条町実行委員会  
の依頼で制作。

○鳥取県立博物館へ「モンブチ」を寄贈。



画業50年展会場

#### 昭和59年（1984） 70歳

6月1日～5日北条町制30周年記念 活躍する郷土人シリーズNo.10 米  
本一郎画業50年展（北条中央公民館）43点。  
6月29日～7月8日第31回倉吉市展「晩秋の沢」  
9月15日～24日第28回鳥取県展「韻」無鑑査。

#### 昭和60年（1985）

4月7日～21日第71回光風会展「韻A」  
5月31日～6月9日第32回倉吉市展「韻A」  
10月17日～27日第29回鳥取県展「韻B」審査員。

#### 昭和61年（1986）

4月7日～20日第72回光風会展「韻C」  
5月16日～25日第33回倉吉市展「韻C」  
9月14日～23日第30回鳥取県展「韻86-D」無鑑査  
12月日本美術出版より「晩秋大山（甘酒茶屋より）」手彩色版画を20枚  
限定で頒布する。同社による1986年度日本版画賞を受ける。

#### 昭和62年（1987）

4月7日～21日第73回光風会展「風韻」  
5月28日倉吉市の委嘱により「水と緑と文化のまちづくり」シンボルマ  
ークの選考審査員をつとめる。  
7月3日～12日第34回倉吉市展「風韻」  
11月12日～20日近作油絵展（倉吉民芸画廊）大山と花26点。

#### 昭和63年（1988）

1月2日～11日新春色紙五人展（百花堂）大山を5点出品。

5月26日鳥取県立博物館協議会委員に任命される。

6月24日～7月3日第35回倉吉市展「大河原大山」

9月4日～13日第32回鳥取県展「大山冬日」無鑑査。

○ 地方美術（日本画、洋画）の振興と作家の育成を願って百花堂選抜展を発案する。他の選抜委員は山栴行雄、石井成海、一島右畊、大寺径月、太田勝の構成で実施。

#### 昭和64年 平成元年（1989）

1月2日～10日新春作家五人展（百花堂）「大山冬日」「大山遠望」「須郷大山」

3月12日第1回中部地区洋画懇話会に参加。

4月7日～21日第75回光風会展「大山晩秋の譜」

6月2日～11日第36回倉吉市展「山頂の饗宴」

9月17日～26日第33回鳥取県展「大山晩秋の譜」審査員。

11月1日～7日油絵個展（百花堂）大山14点、牡丹8点。

23日～28日さかみみなど風景展の審査員をつとめる。

#### 平成2年（1990）

1月2日～10日新春作家五人展（百花堂）

4月7日～21日第76回光風会展「飛雲冬大山」

7日～16日血液中の酸素量が欠乏し垣田病院に入院。以後入院退院を繰り返す。

5月25日～6月3日第37回倉吉市展「飛雲冬大山」

夏 山の絵のテラスに「飛雲冬大山」「月と雪山」を納める。

9月8日～14日自選小品展 心象 様式の変遷（百花堂）

9日～18日第34回鳥取県展「雪の東大山」無鑑査。

11月1日自宅に酸素吸入器を設置。

#### 平成3年（1991）

1月2日～8日新春作家五人展（百花堂）「早春 山」「雪 大山」「秋 大山」

3月27日「黒と金色の絵をかきたい。心のルーツをさぐる 神々と仏」と手帳に記す。

7日～21日第77回光風会展「大山雪韻」

7月12日～21日第38回倉吉市展「雪の沼地」

9月15日～24日第35回鳥取県展「秋独峰」無鑑査。

下旬自選画集の出版を企画する。

○ 「人の老人が死ぬという事はひとつの図書館がなくなることであったといわれる。こんな老人になりたい。」と手帳に記す。

#### 平成4年（1992） 78歳

1月2日～8日第5回新春作家五人展（百花堂）田作「椅子による静

物」「金魚鉢による抽象」「大山遠望」

6月16日逝去。同日付けで勲四等瑞宝章旭日小綬章 正五位が追贈される。

6月26日～7月5日第39回倉吉市展「湿原の韻」絶筆を遺作出品。

#### 平成5年（1993）

4月7日～21日第79回光風会展「湿原の韻」絶筆を遺作出品。